



札幌市立高等学校との連携事業 2012年度看護学科体験学習プログラムを実施【関連記事2ページ】

リハビリテーション科学部長就任にあたって

〔2013年4月1日付〕
リハビリテーション科学部長 泉 唯史



本学5番目の学部となるリハビリテーション科学部の学部長に就任予定の泉と申します。着任の時が近づくとつれ、非常に大きな役割であるが故に不安と期待が両極でますます膨らんでいく感覚であります。

リハビリテーション医学は、他学部の学問背景や歴史と比較して、まだ若い領域ですが、その役割は極めて大きいと考えています。急性期・回復期・地域生活期のあらゆる時期において、さまざまな原因による障害を予防すること、あるいは軽減したり代償することにより、運動機能や精神機能、生活機能を最大限に向上させること、そして生活を豊かにすることができます。それが本来の医療の役割だとすれば、すなわち、リハビリテーション医療は医療の質を飛躍的に高めることを可能にします。

リハビリテーションの対象は3つの次元で整理することができるのではないかと考えています。まず年齢。小児から高齢者までのそれぞれ年齢特有の発達や退行の課題に向き合います。さらに疾患という次元。神経・筋疾患や骨・関節疾患、呼吸・循環・代謝疾患、がんや移植医療、あるいはスポーツ障害などに適切な介入が必要です。もう一つは急性期・回復期・地域生活期といった時相(phase)

です。病気の治癒過程の中でリハビリテーション医療の適切な目標設定と介入方法の選択が求められます。

その上で、4つめの次元。リハビリテーション医療に対する新たなニーズや可能性を拡大していく「発展」という次元が必要となります。日々進歩している医学・医療の成果をリハビリテーション医療の新たな戦略にしていくという次元です。さらに、基本的人権や生命の尊厳としっかりと向き合い、リハビリテーションを必要としているすべての国民に対して、いかなる場面でもリハビリテーション医療を十分に提供できるシステムの構築と人材育成が、「発展」という名のもとに、どうしても不可欠な要素となります。

そのためには、十分に教育を受けた人材の輩出、どのphaseでもその役割を自覚できる人材の輩出、発展と責任をバランスよく実践できる人材の輩出、確固たる情熱と展望を持った人材の輩出が重要となります。

今後ますます既存学部との強力な連携や地域との密接な協働が必要となります。本学において社会に向けての新たな役割を担う学部です。ご指導とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

CONTENTS

リハビリテーション科学部長 就任にあたって	1
定年退職される先生からのメッセージ 日本歯科医学会会長賞(研究部門)を受賞 札幌市立高等学校との連携事業	2
2013年度入試結果速報 札幌開成高等学校「ブレ先端科学特論」の実施	3
同窓会活動状況	4
私の学生時代	6
授業レポート	7
STUDENTS' ACTIVITIES & EVENTS EDITOR'S NOTE	8